

## 拠点地区の課題

- ・小学校において、新学習指導要領や教科化へ対応した授業づくりに不安があり、学校規模的に教職員が研修する機会が少ない。
- ・中学校において、小学校で学ぶ内容を十分に把握できず、土台を活かした系統的な学びの意識が高まっていない。
- ・地区の児童生徒にとって、英語が身近に感じられる環境とは言えない。

## 小中連携を通じた具体的取組の内容

### <小中共通>

○各校1回は授業を地区内で公開し、指導方法等を研修し、担当者、ALT、非常勤講師の間で情報交換を密にする。

### <小学校>

○中学入学までに共通して取り組むことを共有し、実践する。

- ・CAN-DO リストの共有 / クラスルームイングリッシュの共有 / 授業開始時フォニクスを活用した曜日や日付の確認および5クエスチョンの実践 / ローマ字はヘボン式とし、自分の氏名を書けること / 「書く」では4線の上に書き、音声で十分慣れ親しんだ表現を「なぞって」「写して」書くこと

○ALTや非常勤講師と連携し、各校でワークシートや活動内容を共有する。

○実践記録を載せた外国語科通信や地区の研修会記録などを各校に発信し、全職員で共通認識のもと更なる実践を行う。

### <中学校>

- 小学校の取組みを引き継ぎ、クラスルームイングリッシュやフォニクスの活用を継続する。またALTと連携し、小学校の活動を生かす授業実践
- GTTECの結果分析および、児童生徒へのアンケートを行い、英語への意識の変容を確認するとともに、指導改善に活用する。



## 成果

### <小学校>

- ・英語を使うことへの意欲と自信が高まっている。書くことに対する抵抗も低い。
- ・小小連携がスムーズになり、指導内容や評価方法などを学校同士で情報共有している。
- ・中学入学時には自分の氏名をヘボン式で正しく書くことができる。

### <中学校>

- ・ALTと協力し小学校の実践を土台とした言語活動を実践している。また、英語を用いた言語活動への意欲が高くretelling等の活動でも小学校で慣れ親しんだ表現を活用して取り組んでいる。

## 成果

### <小中共通>

- ・山形大学佐藤博晴教授から講話や助言をいただき、指導内容や情報を地区内で共有することで、指導力と自信を高めている。
- ・市で行った学習意識調査の結果、「英語が好き」「授業はよく分かる」と答えた生徒の割合は市平均に及ばなかったものの、小学校では8割を超え、市平均よりも高い結果となった。



## 今後の課題・方向性

### <小学校>

- ・積み重ねた実践内容を非常勤講師やALTに頼らずに継続及び発展させていくこと。

### <中学校>

- ・小学校でどのような場面でどのような言語活動を行い、評価してきたかを把握し、指導に生かすこと。
- ・小学校の学習内容や教材を繰り返して活用し、授業に生かしていくこと。
- ・GTTECの結果分析を指導に生かすこと。

### <小中共通>

- ・単元計画や、評価の手段及び規準を共有したり研修すること。(小小担当者会、小中担当者会の継続及び充実)
- ・授業における一人一台端末の活用についての研修をすること。

外国語活動・外国語科としてのねらい

**知識及び技能**・・・外国語を通して、言語や文化について体験的に理解を深め、基本的な表現に慣れ親しむ。日本語と外国語の違いに気づき、知識を理解してコミュニケーションに活用できる基礎的な技を身に付ける。

**思考力、判断力、表現力等**・・・身近で簡単な事柄について外国語で話したり聞いたりして自分の考えや気持ちを伝え合う。

**学びに向かう力、人間性等**・・・相手や他者に配慮しながら主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

具体的取り組み

- ・ **4線の意識**・・・4線を意識したプリントを作成。振り返りのファイルには全校同一の4線上に名前を示したシールを貼っている。
- ・ **英和・和英辞典の活用**・・・5、6年生で活用している。特に日本語を英語で表したいときに活用している。
- ・ **ジングル、英語の歌の活用**・・・ジングルを繰り返し取り組むことで、ライティングにも活きてきている。歌やリズムで身に付けている。
- ・ **授業前の5questionの習慣**・・・日付、曜日、天気、気分などを毎時間質問し、答えることで慣れてきた。
- ・ **クラスルームイングリッシュの充実**・・・中学年からチャイツとして取り組んでおり、さりげなく英語を使って会話できるようにしている。
- ・ **ALT、ESとともに作る授業**・・・短い時間での打ち合わせができるよう、シートを活用する。

成果①

**英語が好きなお見童が多い**

アンケートの結果からも、外国語の授業が好きだという児童が多いことが分かる。教科書を学ぶだけでなく、教科書で学ぶというように英語を使うことが楽しいと思えるような学習を仕組むことができた。

成果②

**発表内容の高まが見られた**

主に高学年では、自分たちで考えたことや新しく知ったことを発表する場を設けているが、積み重ねの成果で内容の高まが見られている。より多くの英語を使用しようとしている。

課題

- ・原稿を準備せず、即興で伝え合えるような学習を仕組むこと
- ・評価の仕方の共有
- ・英語の学習は将来役に立つという意識がもてるような外国語の学習を仕組む

外国語活動・外国語科としてのねらい

(外国語活動)

・外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、話すことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る素地となる資質・能力を次のとおり育成することを旨とする。

(外国語科)

・外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を次のとおり育成することを旨とする。

具体的取り組み

◆東部地区小中連携の取り組み

- ・ローマ字「へボン式」は、氏名について「姓+名」の順で書いていく。
- ・Phonics 指導の連携→A L T から東部地区小学校すべてで統一して指導していく。
- ・Can Do リストを作成→評価に生かしていく。
- ・E サポーターとの連携→授業内容、教材の選定・作成、校内掲示等の環境整備、教員のスキルアップ

成果①

- ・氏名はへボン式で書くことを意識できるようになった。(中・高学年)
- ・毎時間のクラスルームイングリッシュを継続して行い、時折レベルアップしていくことで、様々な英語に自然に触れて慣れ親しむようになった。
- ・中学年でも毎時間、少しずつ「アルファベットを書く」ことを積み重ねていくことで、書くことに対する抵抗感も少なくなっている。

成果②

- ・高学年では、総合で学んだ環境問題を英語劇にして学習発表会で発表するなど、学習したことを生かす場面をもつことができた。
- ・A L T と E サポーター、それぞれが児童の実態をよく把握しており、より楽しんで学ぶ授業づくりや的確な評価を行うことができるようになってきている。

◆田沢小の子ども達の、高い意欲・知識・技能をさらに伸ばすために

- ・A L T や E サポーターと連携し、無理のないスキルアップができる授業の工夫 (授業始めのクラスルームイングリッシュ、少しレベルの高いイングリッシュセッションへのチャレンジ、アルファベットトレイニングなどを積み重ねる時間を毎時間入れる)
- ・日常生活場面で英語に触れる場面を多くもつ (朝の会での日・曜日・天気・健康観察を英語で確認、校内掲示の工夫)
- ・教科横断的に、学習した英語を活用する場面をもつ (総合などで)
- ・多数の目での評価 (ミニ評価カードをA L T や E サポーターにもチェックしてもらい、評価の材料にプラスしていく)

課題

- ・E サポーターの手厚いサポートにより外国語教育の充実が図られている。配置されなくなった場合、自分達だけで今年度と同じような質を保った外国語授業や環境づくりができるか不安である。この2年間の財産を有効に活用し、その不安を少しでも解消できるようにしていきたい。

外国語活動・外国語科としてのねらい

(外国語活動)

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、話すことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る素地となる資質・能力を次のとおり育成することを旨とする。

(外国語科)

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、書くことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を次のとおり育成することを旨とする。

具体的取り組み

- ・5questionsの習慣化…帯活動として授業の初めの時間に、その日の気分や天気、曜日、日付等を確認することを積み重ねる。
- ・Phonics指導…高学年では、日付や曜日の確認で、Phonics指導を取り入れ、文字と音の一致を図る。
- ・4線を用いた「書く」活動…教科書の例文を元に「書く」活動に慣れる。Phonics指導も活用していく。
- ・ES、ALTとの連携…授業内容・教材の選定・作成を行う。また、担任の話の他にも、たくさんの方の話を聞けるよう、Smalltalkの充実を図る。
- ・クラスルームイングリッシュの活用…中学校英語科へのスムーズな移行のため、授業の中でクラスルームイングリッシュを用いたやりとりを継続して行う。

成果①

英語の学習に対して意欲的な児童が増えた

英語学習意識調査からも分かる通り、英語学習に対して意欲的な児童が増えた。ES、ALTとの連携により、児童の興味に沿った教材づくりを行うことができた。

成果②

継続した活動による英語表現への慣れ親しみ

Phonics指導や5 questionsなど、帯活動として取り入れてきた英語表現は自信を持って言える児童が増えてきた。今度、活動の積み重ねにより、クラスルームイングリッシュにも抵抗なく取り組みたい。

課題①

- ・英語の学習が将来に役立つと思っている児童が少なく、使える意識を持てる授業作りをしていく。
- ・ESの配置がなくなっただけからの授業作り。
- ・評価方法の共有。
- ・即興で話す場面の設定。

外国語活動・外国語科としてのねらい

「コミュニケーション能力の基礎を養う」

- ・外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深める。
- ・外国語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図る。
- ・聞くこと、話すこと、読むこと、書くことなどのコミュニケーション能力の基礎を養う。

具体的取り組み

- ・自分が伝えたいことを表現しやすいように、英和辞書の活用を図っている。
- ・教師と生徒が Classroom English を使い、日常的に英語で会話を増やしている。
- ・Small Talk で生徒同士、生徒と教師が会話をし、自分の考えや気持ちを伝えあう場を設けている。
- ・ALT との授業を通し、phonics を取り入れた発音指導を行っている。
- ・グループでの共同的な学びを通し、協力して解決するような課題を設定している。

成果①

Classroom English や Small Talk を通し、知っている英語を使って話そうとする生徒が増えた。

成果②

一人では取り組むことが難しい課題に対しても、グループで協力して解決しようとする生徒が増えた。

課題

言語材料の意味や働きを知っていても、伝えたい内容がすぐに思いつかないために、英語で表現することに時間を要する生徒が多い。

東部中学区小学校 CAN-DOリスト

目標	身近な話題について様々な場面でやり取りしようとするコミュニケーション能力の素地（となる資質・能力）を育てる		身近な話題や自分の地域について、様々な場面でやり取りができるコミュニケーション能力の基礎（となる資質・能力）を育てる	
	3年生	4年生	5年生	6年生
1 聞くこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>好きな色や食べ物など、自分のことや身の回りの物を表す簡単な語句を聞き取ることができる。（※ゆっくりはっきりと話された際）</li> <li>大文字の読み方が発音されるのを聞いた際に、どの文字であるかが分かる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>時刻や曜日、場所など、身近で簡単な事柄に関する基本的な表現の意味が分かる。（※ゆっくりはっきりと話された際）</li> <li>小文字の読み方が発音されるのを聞いた際に、どの文字であるかが分かる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>身近な話題についての短い簡単な英語を聞いて、内容を大まかに理解することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>身近な話題についての簡単な英語を聞いて、内容を大まかに理解することができる。</li> </ul>
2 話すこと <やり取り>	<ul style="list-style-type: none"> <li>英語であいさつや感謝の気持ちを表したり、簡単な指示に応じたりすることができる。</li> <li>自分のことや身の回りの物について、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現で伝え合うことができる。（※動作を交えながら）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>英語で質問したり、質問に答えたりすることができる。</li> <li>身近な事柄に関する自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現で伝え合うことができる。（※動作を交えながら）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>英語であいさつをかわしたり、好きなものや欲しいものを聞いたり答えたりするなど、日常生活に関する簡単なやりとりができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分のことや身近なことについて、相手に質問したり質問に答えたりして、やりとりをすることができる。</li> </ul>
<発表>	<ul style="list-style-type: none"> <li>好きなものや嫌いなもの、欲しいものなど、身の回りの物や自分のことについて、簡単な語句や基本的な表現で話すことができる。（※人前で実物などを見せながら）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>時刻や曜日、場所など日常生活に関する身近で簡単な事柄について、自分の考えや気持ちなどを簡単な語句や基本的な表現で話すことができる。（※人前で実物などを見せながら）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>好きなもの、欲しいもの等を含めて簡単な自己紹介ができる。</li> <li>自分の行きたい場所や紹介したいことなどを、簡単な表現で発表することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校生活や地域に関する身近な事柄などについて、簡単な表現で発表することができる。</li> <li>自分の考えや気持ちを含めて、簡単な表現で発表することができる。</li> </ul>
3 読むこと			<ul style="list-style-type: none"> <li>アルファベットに音と名前があること、大文字と小文字があることが分かる。</li> <li>音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現で書かれたものを指で追うことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>アルファベットを識別し、発音することができる。</li> <li>音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現で書かれたものを指で追って読むことができる。</li> </ul>
4 書くこと			<ul style="list-style-type: none"> <li>アルファベットの大文字と小文字を正しく書くことができる。</li> <li>簡単な語句や基本的な表現で書かれたものを書き写すことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>語順を意識しながら、簡単な語句や基本的な表現を書くことができる。</li> <li>例文を参考にして、自分で文章を作って書くことができる。</li> </ul>